



Shimane University Hospital
島大病院ニュース

2026年
10月
Vol.156

NEWS



CONTENTS

表紙：総合感染症センター 教授 羽田野 義郎

- 中表紙
- ・教授就任のご挨拶
 - ・高度肥満症に対する外科手術を実施しました

裏表紙

- ・世界小児がん啓発キャンペーン2026「みんながみんなを支える」

(Global Gold September Campaign) 世界小児がん啓発キャンペーン 2026 「みんながみんなを支える」

小児科 教授
助教

たけたに 健
おやま ちぐさ
小山 千草
くろさき 黒崎あかね

チャイルド・ライフ・スペシャリスト

毎年9月は、世界各地の象徴的な建造物（史跡・城・橋など）を金色にライトアップし、小児がん治療の重要性を伝えるとともに、子どもたちに必要な医療や研究へ「光を照らす」世界的な啓発イベントが行われています。

2022年から当院は、島根県や家族の会と共にこの取り組みに参加し5周年を迎えました。今年は県内各所（出雲大社、松江城、アクアス）のライトアップにあわせて、小児がん患者のご家族と地域が繋がるイベントを開催しました。出雲大社のライトアップはあいにく雨天中止となりましたが、お昼のうらら館では、スタンプラリー、ホスピタルクラウンショー、神楽などを催し、子どもたちの笑い声やたくさん笑顔で溢れていました。小児がん応援「レモネード募金」には、小児がん治療を経験した子どもとその家族のお手伝いもあり、行列が絶えませんでした。うらら館に集まってくださった皆さまの温かい想いに包まれ、小児がんへの理解を深めるとともに、「みんなで支え合おう」という絆を実感できた一日となりました。

今回のイベントにご参加・ご協力いただきました皆さまには、心より御礼申し上げます。今後とも小児がんへのご理解・ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

問い合わせ先

小児科 医局 TEL:0853-20-2220



関係機関・団体（順不同）

- ・出雲市
- ・かけはしの会
- ・株式会社あしたの為のDesign
- ・しまね“あそぼっ！”の会
- ・島根県
- ・島根県がん対策募金活用事業
- ・島根県共同募金会
- ・島根大学総合理工学部（建築デザイン）
- ・中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム
- ・島根大学がんプロ事務局
- ・機屋神楽保持者会
- ・NPO 法人日本ホスピタル・クラウン協会



教授就任のご挨拶

救急医学講座 教授 さわの ひろたか
澤野 宏隆

このたび、2026年9月1日付で救急医学講座教授を拝命いたしました澤野宏隆と申します。歴史と伝統を有する本学において、救急医学の教育、診療、研究を担う機会をいただき、その責任の重さを深く感じております。

私は1994年に滋賀医科大学を卒業後、第三内科（現・糖尿病内分泌・腎臓内科）に入局し、内科疾患の診療に幅広く携わりました。2002年からは大阪府済生会千里病院千里救命救急センターにおいて、救急診療および集中治療に長年従事してきました。重症患者への対応に加え、迅速かつ質の高い救急診療体制の構築にも取り組んできました。



鳥根県の救急医療は、人口減少や高齢化、医療資源の地域偏在、医療従事者の不足など、地方特有の課題に直面しています。一方で、大学病院には、高度かつ専門的な医療を提供するとともに、県全体の医療を支える役割が求められています。救急医療は、救急医をはじめ、各診療科の医師、看護師、救急救命士、その他の医療職、さらには消防、行政、地域の医療機関が、それぞれの役割を果たし、互いに連携することで成り立っています。救急医学講座が地域の救急医療を支える中心的な存在となり、多職種・多機関との連携を深めることで、地域住民に安心と安全を届けられるよう努めてまいります。

また、救急医学の発展のためには、人材の育成が不可欠です。学生、研修医、専攻医が救急医学の魅力を実感し、将来、地域医療を支える人材へと成長できる教育環境を整えていきたいと考えています。

これまで培ってきた経験と、多くの方々とのご縁を大切にしながら、鳥根県の救急医療のさらなる充実に全力を尽くす所存です。今後とも皆様のご指導とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

問い合わせ先 救急医学講座 医局 TEL:0853-20-2402

鳥根県初

高度肥満症に対する外科手術を実施しました

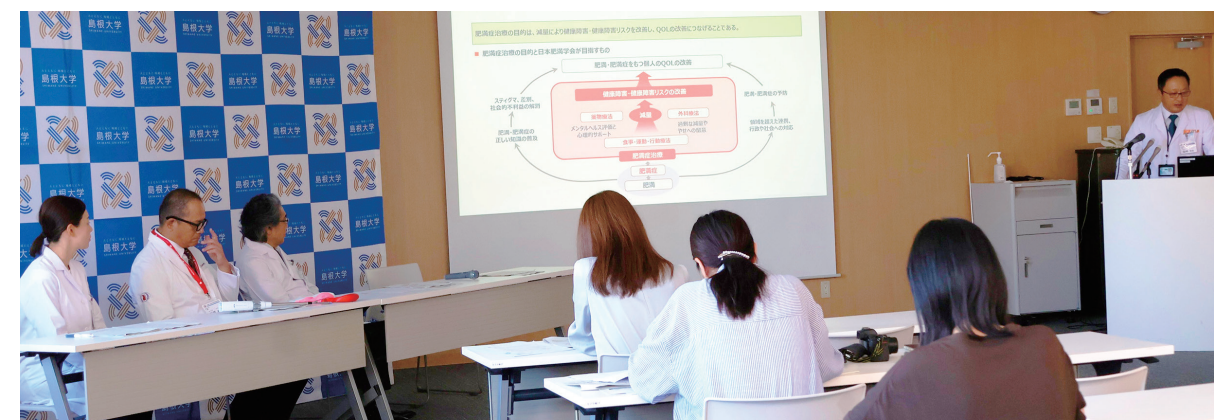
肥満症総合ケア・アウトリーチセンター（COCO） センター長
内分泌代謝内科 診療科長 かなさき けいぞう
金崎 啓造

肥満症は、単に体重が多い状態ではなく、糖尿病、高血圧症、脂質異常症、睡眠時無呼吸症候群、代謝機能障害関連脂肪性肝疾患、関節症などの健康障害を伴い、医学的な減量治療を必要とする慢性疾患です。このたび当院では、内科的治療のみでは十分な改善が得られない高度肥満症に対し、鳥根県内で初めて腹腔鏡下スリーブ状胃切除術（LSG）を実施しました。

LSGは、胃の大彎側を約80%切除して細長い胃を形成する手術です。食事摂取量を抑えるとともに、食欲や満腹感に関わるホルモンにも作用し、持続的な体重減少と肥満に伴う健康障害の改善を目指します。

今回の手術に際しては、肥満症総合ケア・アウトリーチセンター（COCO）が診療の調整役となり、内科、外科、精神科、麻酔科などの診療科と、管理栄養士を中心とする多職種の医療スタッフが連携しました。患者さんの病態、手術リスク、心理・社会的背景を多面的に評価し、術前の栄養・運動支援、周術期管理、術後の食事指導と合併症管理まで、一連の診療を多職種で支援しました。センター設置後に構築してきた連携体制が、今回、初めてのLSG治療として結実したものです。

これまで県外での治療を要することもあった患者さんに、県内で手術と長期的なフォローアップを提供できる意義は大きいと考えます。今後も地域の先生方と連携し、患者さん一人ひとりに適した包括的な肥満症医療と情報発信を進めてまいります。



9月1日（火）記者会見の様子（右から著者、椎名病院長、松原講師、四方田医師）

問い合わせ先 内分泌代謝内科 医局 TEL:0853-20-2183



島大病院ニュース 2026年10月

お知らせ

高齢者てんかん

—脳神経内科における診断と治療の新たな取り組み—

脳神経内科 准教授

たなか ともたか
田中 智貴

てんかんは小児だけでなく高齢者でも発症率が高く、人口の高齢化に伴い、高齢者てんかんの患者数も増加しています。65 歳以上では1～1.5%がてんかんを有するとされており、島根県では約 2,000 人以上の高齢者てんかん患者がいと推定されます。高齢者てんかんでは、原因として脳卒中や認知症などの脳疾患が多くみられます。また、高齢者のてんかん発作は必ずしも全身のけいれんを伴うとは限らず、「突然会話が途切れる」「ぼんやりして反応が乏しくなる」といった症状のみの場合もあり、認知症による症状や一過性の意識障害などとの鑑別が重要です。

高齢者では複数の併存疾患や併用薬を有することが多いため、診断・治療には若年者とは異なる配慮が必要です。2026 年改訂のてんかん診療ガイドラインでは「高齢者てんかん」の章が新設され、当科医師もその執筆に携わっています。こうした最新の知見を診療に生かし、適切な診断・治療に取り組んでいます。

当院脳神経内科では、2026 年 4 月よりてんかん専門医による専門外来を開設しています。脳波、頭部 MRI、脳血流検査、心理検査を組み合わせ適切な評価を行っています。また、てんかん認定研修施設の申請に向けて、毎月臨床検査技師とともに脳波カンファレンスを開催し、脳波所見や診断について検討しています。

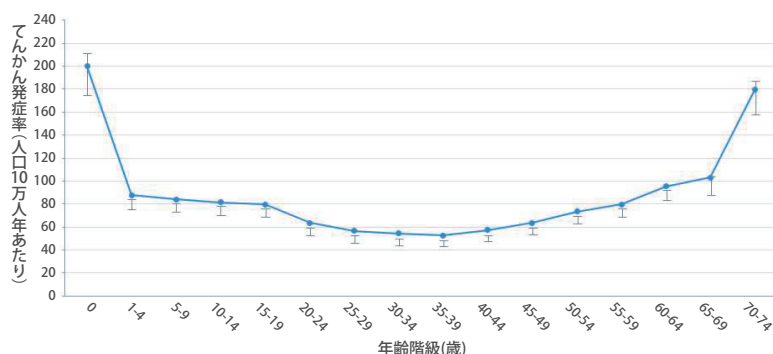
発作コントロールが難しい成人てんかんの診断再評価や治療薬の調整にも対応しています。認知機能低下を伴う場合には認知症との鑑別を行い、アルツハイマー病が疑われる場合にはアミロイド抗体療法の適応についても検討しています。

診断・治療でお困りの患者さんがおられましたら、いつでもご相談をお待ちしております。



当院での脳波カンファレンスの様子

日本における年齢階級別てんかん発症率



日本の健康保険組合加入者を対象とした全国規模の保険請求データ解析(2012～2019年)。発症率は人口10万人あたりで示し、点は各年齢階級の発症率を示す。Kurusu A, et al. J Epidemiol. 2024より改変

問合せ先 脳神経内科 医局 TEL : 0853-20-2198



島大病院ニュース 2026年10月

お知らせ

オンライン診療ネットワーク拡大中！

地域医療政策センター 教授 こんどう まさひろ
近藤 正宏

当院では、遠方への通院が困難な患者さんにも専門医療を届けるため、Doctor to Patient with Doctor 形式のオンライン診療に取り組んでいます。D to P with D とは、患者さんが地域の医療機関を受診し、その場に在る医師の支援を受けながら、大学病院の専門医によるオンライン診療を受ける仕組みです。

2025 年 10 月に隠岐病院との間で運用を開始し、その後、海士診療所、隠岐島前病院へと連携先を拡大してきました。離島から大学病院までの移動には大きな時間的・身体的・経済的負担を伴いますが、オンライン診療を利用された患者さんからは、身近な医療機関で専門医の診療を受けられることについて大変好評をいただいています。

国もオンライン診療の活用を推進しており、2026 年 6 月からは、対象が従来の難病(含疑い)に加え、悪性疾患(治療中に限る)、医療的ケア児、膠原病などへ拡大され、診療報酬も大幅に見直されました。当院では今後さらに連携先を広げる方針で、2026 年 9 月現在、飯南病院(飯南町)、邑智病院(邑南町)、益田赤十字病院(益田市)ともオンライン診療を行うことができる体制を整えています。

地域における医師偏在や専門医療へのアクセス低下が課題となる中、患者さんが住む地域によって受けられる医療に差が生じることのないよう、県内どこに住んでいても安心して適切な専門医療を受けられる体制づくりをさらに進めてまいります。

オンライン診療ネットワーク (2026年9月現在)



問合せ先 地域医療政策センター TEL : 0853-20-2237

お知らせ
島大病院ニュース

2026年10月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課
TEL : 0853-20-2068 FAX : 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ

<https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



お知らせ
島大病院ニュース

2026年10月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課
TEL : 0853-20-2068 FAX : 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ

<https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





島大病院ニュース 2026年10月

ご報告



花火鑑賞



みんなで夏まつり会場の準備をしました



手形アートを作成しました

緩和ケア病棟で夏祭りを開催しました

緩和ケア病棟	センター長	おおの	さとし
緩和ケア病棟	看護師長	大野	智
		せのお	ちえ
		妹尾	千恵

2026年8月1日（土）の夕刻、C病棟5階の緩和ケア病棟では、「古志夏祭り花火大会」に合わせた夏祭りを開催しました。夏祭りならではの「ヨーヨーすくい」や「かき氷」を楽しんでいたほか、患者さんやご家族と記念写真を撮影し、手形を取るなど、思い出に残るひとときとなりました。

また、患者さんやご友人によるギター演奏に合わせて、「線香花火」や「プカプカ」など懐かしいフォークソングの歌唱が行われ、参加された皆さんは手拍子で盛り上がりました。さらに、緩和ケアセンター長をはじめスタッフも法被姿で参加し、祭りの雰囲気を一層盛り上げました。

その後、患者さんやご家族は緩和ケア病棟のベランダから、古志大橋付近に打ち上げられる花火を鑑賞されました。花火を眺めながら懐かしい思い出に花を咲かせ、音楽に包まれた和やかな時間の中で、多くの笑顔が見られました。

今後も、患者さんやご家族が季節を身近に感じ、思い出に残る時間を過ごせるよう、このような機会を大切にしていきたいと思ひます。

問合せ先 C病棟5階 TEL：0853-20-2615



2026年10月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課
TEL：0853-20-2068 FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ

<https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



島大病院ニュース 2026年10月

ご報告



メルシーちゃんと触れ合うお子さん



メルシーちゃんと中嶋病棟医長



メルシーちゃんを撫でる川野医師

セラピードッグが届けてくれた笑顔と元気

小児科	教授	たけたに	たけし
病棟保育士（ホスピタル・プレイ・スペシャリスト）		竹谷	健
		つばき	あつみ
		椿	敦美

小児がん親の会「かけはしの会」のご協力により、米子市のファミリークリニックせぐち小児科で活躍するセラピードッグ「メルシーちゃん」が小児病棟を訪問してくれました。セラピードッグは、特別な訓練を受け、人とのふれあいを通して心の安らぎや癒やしを届ける存在として、医療や福祉の現場で活躍しています。

入院中の子どもたちは、治療への不安を抱え、さまざまな制限のある生活を送っています。そのような中で、メルシーちゃんとの時間は特別なひとときとなりました。術後の痛みや恐怖からベッドを離れることが難しかった7歳の女の子は、「犬が来る日」を心待ちにし、自ら車椅子に乗って対面を果たしました。また、長期入院によるストレスを抱えていた子どもたちも、頭をなでたり抱っこしたりする中で自然と笑顔を取り戻していききました。

その温かな時間は子どもたちだけでなく、日々患者さんと向き合う医療スタッフにも元気を与えてくれました。動物とのふれあいが持つ力を改めて実感するとともに、病棟全体が優しい空気に包まれた一日となりました。

今回の訪問にご尽力いただいた「かけはしの会」の皆様、ファミリークリニックせぐち小児科の皆様、そして子どもたちに笑顔届けてくれたメルシーちゃんに心より感謝申し上げます。今後も子どもたちの心に寄り添う環境づくりに努めてまいります。

問合せ先 小児病棟 TEL：0853-20-2616



2026年10月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課
TEL：0853-20-2068 FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ

<https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





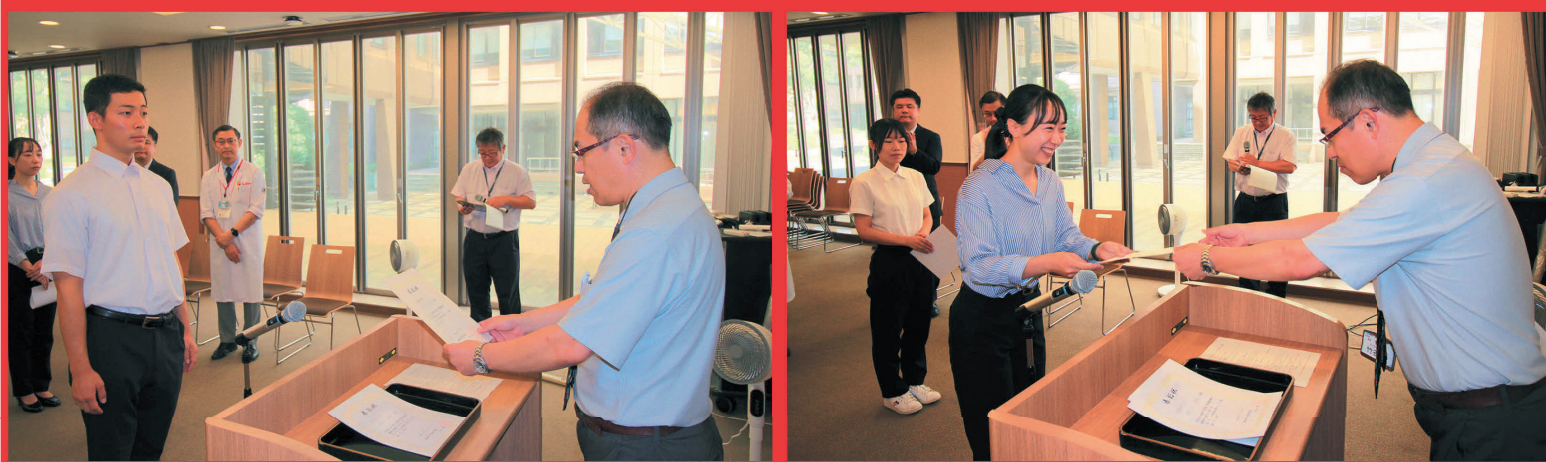
島大病院ニュース 2026年10月

ご報告



島大病院ニュース 2026年10月

ご報告



成績優秀者へのインセンティブ表彰式を開催

学務課学生支援・総務担当

医学部では、学生の学習意欲の向上を目的として、優秀な学業成績を収めた学生を表彰する「インセンティブ表彰式」を開催しています。

今年度の表彰式は7月30日（木）に開催し、医学部長をはじめ、医学科長、看護学科長が出席しました。

式典では、医学部長から表彰学生（該当者21名、うち出席者13名）へ表彰状を授与しました。学生たちは、晴れやかな表情で表彰状を受け取り、日頃の努力が認められた喜びを感じている様子でした。なお学生へは、副賞として希望図書を贈呈いたします。

学生の学びを日々支える私たちにとっても、このような形で学生の努力や成果を称える機会は、大変嬉しく、励みになるひとときです。今回の表彰を一つの糧として、表彰学生の皆さんが今後さらに学びを深め、それぞれの分野で活躍されることを心より期待しています。

また、本学で学ぶすべての学生が互いに刺激を受け、切磋琢磨しながら、それぞれの目標に向かって成長していくことを願っています。

～医学部長から受賞者のみなさんへのメッセージ～

成績優秀者の皆さん、表彰おめでとうございます。

日々の真摯な努力と学問への情熱が素晴らしい成果を結実させたことを、心より誇らしく思います。医学・看護の道は深く絶え間ない学びの連続ですが、ここで育んだ知識と探究心は、将来患者さんに寄り添う大きな力となります。今回の受賞を大きな自信とし、志を高く掲げてさらに飛躍されることを期待しています。皆さんの未来が実り多きものとなるよう、心から応援しています。

問合せ先 学務課学生支援・総務担当 TEL:0853-20-2084、2088



緩和ケア研修会を開催しました

研修会企画責任者 医学部 精神医学講座 助教 ながはま みちはる
緩和ケアセンター センター長 長濱 道治
おの 大野 さとし 智

2026年8月22日（土）、島根県の共催により、緩和ケア研修会を当院ゼブラ棟2階「だんだん」にて開催しました。当日は、医師・看護師など多職種の医療従事者26名が参加し、緩和ケアへの理解を深めました。

本研修会は、国の「がん診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会の開催指針」に基づいて実施しているもので、がん診療に携わる医療従事者が緩和ケアの基本的な知識・技術・態度を習得し、日常診療において実践できるようになることを目的としています。緩和ケアは、がん患者さんだけでなく、さまざまな疾患を抱える患者さんとそのご家族の身体的・精神的苦痛を和らげ、その人らしい生活を支えるための重要な医療です。

研修会では、コミュニケーションのセッションにおいて、ロールプレイを行い、参加者が患者役を体験することで、患者さんの思いや価値観に耳を傾けることの大切さを実感するとともに、適切なコミュニケーション技法について理解を深めました。

また、模擬症例を用いたグループワークのセッションにおいて、多職種による活発な意見交換が行われ、がん疼痛をはじめとした身体症状の評価とマネジメントに加え、患者さんが抱える精神的・社会的・スピリチュアルな苦痛を含む「全人的苦痛」への理解を深め、地域の医療・介護・福祉資源を活用した支援の重要性について学びました。

今後も、本研修会で得られた知識や経験を日々の診療にいかすとともに、地域の医療機関や多職種との連携を深めながら、患者さんにご家族に寄り添う医療の実践につなげてまいります。

問合せ先 精神医学講座 TEL:0853-20-2262



2026年10月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課
TEL:0853-20-2068 FAX:0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ

<https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



2026年10月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課
TEL:0853-20-2068 FAX:0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ

<https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





納涼祭を開催しました！

ワークライフバランス支援室 若手から島根大学病院を盛り上げよう会

2026年8月5日(水)、ホテル武志山荘にて、職員の交流を目的とした親睦イベント「納涼祭」を開催しました。かつて恒例行事として毎年開催されていた納涼祭は、コロナ禍による中止を機にその歴史に一区切りがついていました。しかし、職員同士の交流機会が減少する中、職員満足度の向上や組織の一体感の醸成につながる場を設けたいとの病院長の発案を受け、附属病院ワークライフバランス支援室と医師の有志の集まりである「若手から島根大学病院を盛り上げよう会」が中心となり、この度新たな形で納涼祭を企画・開催しました。当日は職員とご家族を含め、180名の参加があり、会場は終始大きな賑わいを見せました。部署や職種の垣根を越えて交流する姿が多く見られ、普段の業務では接点の少ない職員同士が親睦を深める貴重な機会となりました。

また、職員有志による詩吟やダンスの披露、島根大学クイズ大会など多彩な催しが行われ、会場を大いに盛り上げました。さらに、納涼祭のフィナーレを飾った病院長も参加するバンド演奏では、会場全体が一体となり、この日最大の盛り上がりを見せました。

多くの皆さまのご協力により、久々の復活となった納涼祭を盛況のうちに終えることができました。参加者からも好評の声が寄せられ、職員同士の交流や結束の大切さを改めて実感する機会となりました。



問合せ先 総務課人事・労務管理担当 TEL：0853-20-2010

